

#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.1341)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。



異界の歩き方

ガタリ・中井久夫・当事者研究

村澤和多里、村澤真保呂＝著

定価 2,200 円／A5 判・280 頁／医学書院／2024

精神症状が人をおそうとき、世界は変貌する。異界への旅が始まるのだ。そのとき〈旅立ちを阻止する〉よりも、〈一緒に旅に出る〉ほうがずっと素敵ではないだろうか。フェリックス・ガタリの哲学（「機械」！）と、べてるの家の当事者研究（「誤作動」！）に、中井久夫の「生命」への眼差しを重ね合わせると、新しいケアとエコロジーの地平がひらかれる！ これまで交わらなかった三者による、発見と生成と意外な到達点。



事例で学ぶ

医療機関で起きる法的トラブルへの対処法

加古洋輔、増田拓也、長谷川葵、堀田克明＝編

田淵一、荒神裕之＝編集協力

定価 4,400 円／B5 判・240 頁／医学書院／2024

弁護士×医療現場の責任者による法的トラブル Q & A！ 病院、クリニックでは日々さまざまなトラブルが生じている。本書は具体的な事例を紹介しつつ、トラブルへの対処や予防の方法を、Q & A 形式でわかりやすく解説する。弁護士の豊富な実務経験をもとに、医療現場の責任者の視点も加わり、最新の法改正やトピックにも対応。医療事故や労務管理のみならず、SNS、サイバー攻撃、医師の働き方改革など多岐にわたるテーマを取り上げている。医療現場のお悩み解決に役立つ一冊。



『呼吸器ジャーナル』2024 年 8 月号 (Vol.72 No.3)

特集 低酸素に打ち克つ

佐藤晋＝企画

定価 4,510 円／A4 変判・176 頁／医学書院／2024

生命活動に不可欠な酸素状態の維持は、呼吸器の精緻な構造と機能に依存した換気・ガス交換により構成される「呼吸」によって達成される。呼吸器の機能障害を有する呼吸器疾患診療において、酸素状態の維持は重要課題である反面、呼吸の不全・病的状態においてどのように介入・維持するかは、容易なことではない。酸素状態の異常には、低酸素状態と高酸素状態があり、低酸素状態には持続的低酸素、間歇的低酸素という異なる特徴を有する状態がある。哺乳動物としての進化の過程まで振り返ってみると、現在と地球環境の酸素レベルは必ずしも一定ではなく、数千～数万年規模での環境変化という視点からみても、多くのことに気付かされる。こうした生命の神秘も感じとれる一冊。



『総合リハビリテーション』2024年9月号 (Vol.52 No.9) 特集 高次脳機能障害者を地域で支える

定価 2,640 円 / B5 判・128 頁 / 医学書院 / 2024

2004年に厚生労働省は高次脳機能障害の行政診断基準を策定した。それまで対応されていなかった脳血管障害や脳外傷、低酸素脳症などの後天性脳損傷による認知機能障害を抱えた人々が、医療や福祉の現場で注目され、治療や支援の対象となったことは非常に画期的なことであった。それから20年が経過し、現在では「高次脳機能障害」は保険病名として広く用いられ、福祉の現場でも認知されるようになってきている。診断基準が策定されて20年が経過した今、高次脳機能障害者を地域で支えるために何が必要なのか？



『BRAIN and NERVE』2024年9月号 (Vol.76 No.9) 特集 治療可能な認知症としての アルツハイマー病

定価 3,080 円 / A4 変判・112 頁 / 医学書院 / 2024

アルツハイマー病治療は新たな夜明けを迎えている。2023年9月に国内で初めてアルツハイマー病疾患修飾薬であるレカネマブが承認され、2024年7月の時点ですでに2,800例以上の人に投与が始められている。同じく2024年7月には donanemab が米国で承認され、本邦でも承認が見込まれており、これら新規薬剤への期待は大きい。レカネマブの投与には早期診断が必要であることから、患者は早期から病名告知を受けることになり、適切な支援が不可欠である。また、アミロイド関連画像異常 (ARIA) など副作用への対策が求められ、APOE 遺伝子検査をめぐる臨床倫理上の課題もある。新時代に対応した診療のストラテジーを構築したい。



『medicina』2024年9月号 (Vol.61 No.10) 特集 内科医が知っておくべき ICU・ERでの薬の使い方

神宮司成弘、岩田充永＝企画

定価 2,970 円 / B5 判・192 頁 / 医学書院 / 2024

内科診療では、あらゆるセッティングにおいて急変が起こり得る。限られた医療資源しかない状況で突然のショックや心筋梗塞など重篤な疾患の初期対応を迫られる場面が珍しくない。適切な生命維持と迅速な診断、根治的治療の早期導入が重要となる。特に急変時には、限られた時間と情報のなかで最善の判断を下し、適切な治療を開始することが予後に直結する。このような緊迫した状況下で、使い慣れていない薬剤を使用することは非常に大きなストレスを伴い、診療の迅速さにも影響を及ぼす。本特集では、そうした現場での一助となることを目指し、エビデンスに基づいた情報だけでなく、臨床現場で得られた経験やコツも含め、即座に役立つ内容を提供する。